

Rakuyomi 日銀は市場予想通りの利上げを決定

Vol. 2,063

～利上げ継続方針を再確認も、ペースや時期は示さず～

市場予想通り、0.25ポイントの利上げを決定

日本銀行(日銀)は1月23～24日に開催した金融政策決定会合で、市場予想通り、政策金利(無担保コール翌日物金利の誘導目標)を0.25ポイント引き上げ、0.5%程度としました。利上げは半年ぶり、政策金利が0.5%となるのは07年2月～08年10月以来、約17年ぶりです。

日銀は、景気の現状について、一部に弱めの動きも見られるが、緩やかに回復しているとの判断を維持したほか、経済・物価の先行きについては、見通しが実現していく確度が高まってきていました。また、見通し(右表参照)では、2025年度を中心に物価上昇率を上方修正しました。

24日の市場では、日銀の声明や見通しなどを受け、利上げの継続が見込まれるとして、中期債を中心に国債利回りが上昇したほか、円相場は1米ドル＝155円台に上昇しました。株式相場は5営業日ぶりに反落したものの、下げ幅は限定的でした。

賃上げは続くと判断、米政権の政策は不確実

日銀の植田総裁は、賃上げが続く見通しが強まったことを利上げの理由の1つとして挙げました。大手企業については、今年も賃上げを継続すると発言が経営者から相次いでいます。また、1月上旬の日銀支店長会議では、継続的な賃上げが必要との認識が幅広い業種・規模の企業に浸透してきていると報告されました。

トランプ米大統領の就任以降、金融市場が全体としては落ち着いていることも、利上げの判断を後

押ししました。ただし、先行きの不確実性が高く、関税政策の規模・拡がりがある程度固まった後に経済・物価見通しなどに反映し、政策運営に活かすとの考えが示されました。

加えて、円安・米ドル高で輸入品の価格上昇の流れが強まっていることなど、物価の上振れリスクも判断材料とされました。

金融市場では、夏頃の追加利上げを有力視

同総裁は、今回の利上げ後も実質金利は極めて低いとして、経済・物価が見通しに沿って推移すれば、政策金利を引き上げていくとの方針を再確認しました。ただし、そのペースや時期は経済・金融情勢次第で予断は持っていないと述べました。なお、次の利上げの金融市場での織り込み具合は、6月会合まででは40%弱ながら、7月会合までで約60%、9月会合まででは約90%となっています。

年内の金融政策決定会合の予定

(下段: 主な意見の公表日)

3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	12月
18・19	4/30・5/1	16・17	30・31	18・19	29・30	18・19	
3/28	5/13	6/25	8/8	9/30	11/10	12/29	

下線がある会合では、「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)を公表

注: 1月23～24日の会合の主な意見の公表は2月3日

日銀の発表などをもとに日興アセットマネジメントが作成

25年1月の展望レポートの見通し(中央値)

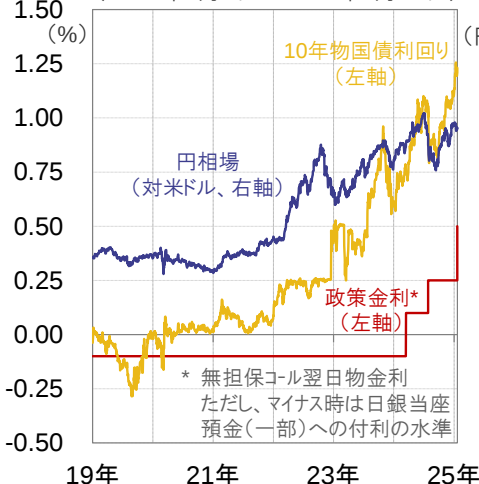
対前年度比、単位:%	24年度	25年度	26年度
実質GDP	0.6→0.5	1.1→1.1	1.0→1.0
消費者物価指数(除く生鮮食品)	2.5→2.7	1.9→2.4	1.9→2.0

注: 矢印の左側の値は24年10月時点の見通し

出所: 日銀

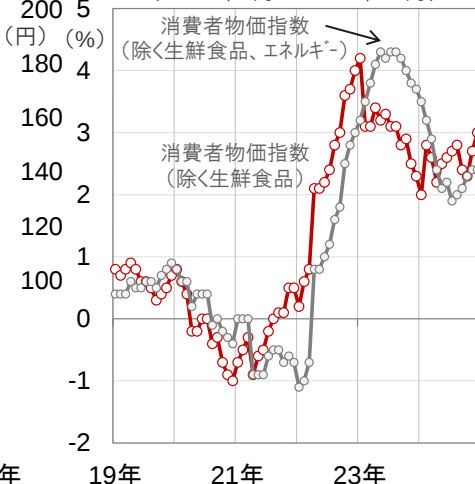
金利と円相場の推移

(2019年1月4日～2025年1月24日)



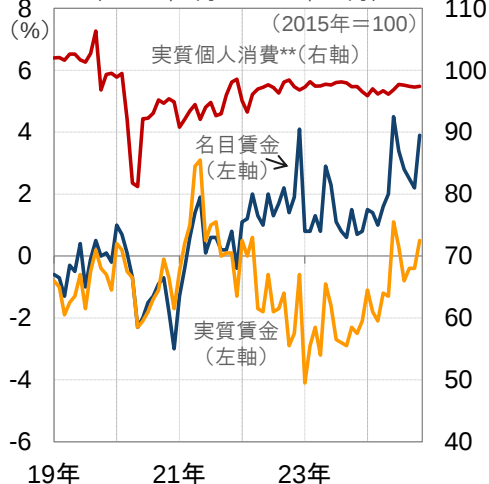
物価上昇率(前年比)の推移

(2019年1月～2024年12月)



賃金(前年比)と消費の推移

(2019年1月～2024年11月)



日銀、総務省、厚生労働省などの信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

**実質消費活動指数(除くインバウンド消費・含むアウトバウンド消費)

※上記は過去のものおよび見通しであり、将来を約束するものではありません。